

「日々の理科」(第 2731 号) 2022, -1, -5

「お正月に遠くの山を望む(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

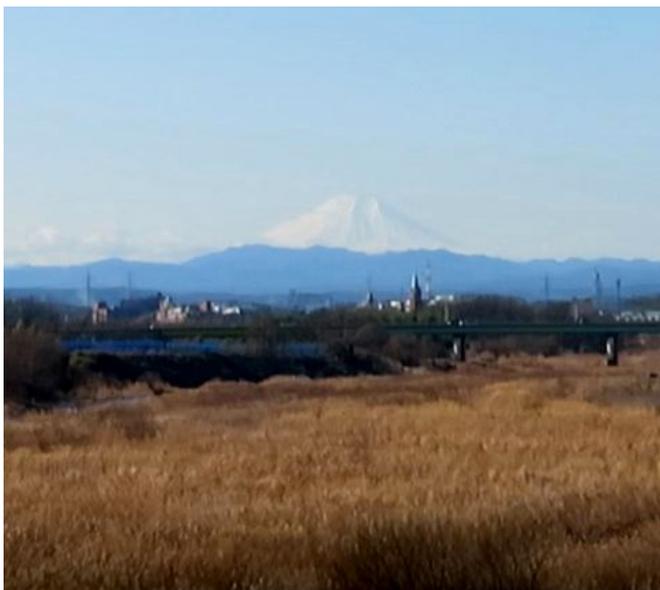
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

関越自動車道からは、ところどころ富士山も見える。位置的には、新座料金所から東松山 IC あたりまで、ずっと見えるはずなのだが、切通し、建物、高速の防音壁などが邪魔をして、なかなか見える地点がない。道路でも鉄道でも、遠くの山が一番良く見えるのは、障害物の少ない「川」を渡る橋の上からだろう。



関越道の場合、「入間川」を渡る橋からの眺めが一番良い。特に冬枯れの時期は障害物が少なく、遠くの山脈や富士山がよく見える。



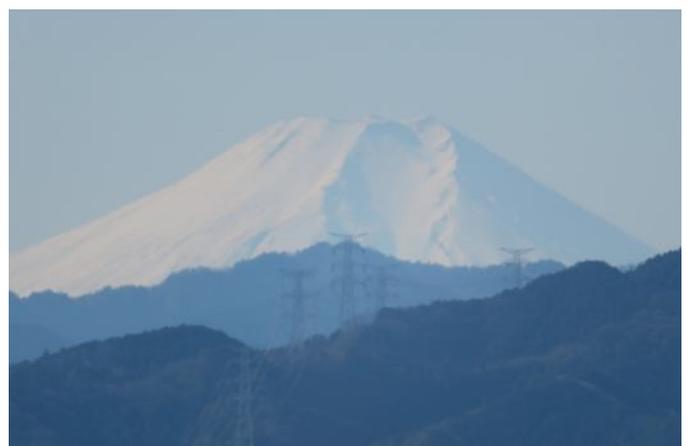
残念ながら、「道志山塊」(丹沢山塊の北側の山地)が邪魔をして、富士山は裾野までは見えない。見えているのはおよそ五合目よりも標高の高い部分で、今の時期は完全に雪に覆われている。



途中、両親や親戚に「お年賀」を購入するために、高坂 SA に寄った。このあたりでは大規模な SA で、この日はとても混雑していた。



高坂 SA は、上り線と下り線の駐車場の連絡路があり、人は自由に行き来ができる。下り線の駐車場から上り線の駐車場を見ると、遠くに富士山が見えた。



走っている車の中からでは、遠くの山を望遠で撮るのは難しいが、SA からならゆっくり撮影ができる。手前の稜線は、関東山地の前衛、その向こうの山脈が道志山塊である。富士山で二番目に大きい侵食谷の「吉田大沢」がはっきり見える。この角度から見ると、火口壁の高低差もなく、富士は実に美しく見える。